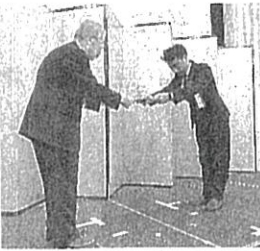


薄膜技術研究 7人に助成金

サムコ振興財団

サムコ科学技術振興財団(京都市伏見区、辻理事長)は13日、薄膜技術分野の優れた



辻理事長(左)から研究助成金の目録を受け取る研究者(京都市下京区・京都市サーチパーク)

研究を支援する本年度の研究助成金贈呈式を京都市下京区の京都市サーチパークで開き、採択した7人の研究内容をたたえた。

研究助成は国内で薄膜・表面科学と関連の工学分野を研究する45歳以下を対象。本年度は91人の応募があり、5人の採択枠を7人に増やした。京都大医生物学研究所の新生博文教授や京大工学研究科の杉安和憲教授らを選んだ。

辻理事長は「世界トップレベルの研究が多

く、選抜に苦労した。

将来は採択枠のさらなる拡充や対象を海外研究者にも広げたい」と述べ、助成金目録を手渡した。(柿木拓洋)

「10年後のニーズ意識して研究」

サムコ贈呈式 ネオジム磁石開発者が講演



サムコ科学技術振興財団の招待で記念講演するネオジム磁石開発者の佐川氏(京都市下京区・京都市サーチパーク)

コバルト系磁石が主流で、会社の指示を受けてコバルト系磁石の強度改善を進めながら、並行して自宅で鉄を素材にした永久磁石の研究を続けた、と紹介。

ネオジム磁石は10年後のニーズに沿っていたといい、「最近のデータ創出・活用型研究もいいが、もつと大事なことは10年後の社会のニーズを早く見つけること」と強調した。

また研究助成対象に選ばれた若手研究者らの質問に答え、「今も二つの分野で革新的な発明を狙っている。研究に年齢は関係なく、考えに考え尽くす姿勢が大切だ」と激励した。

(鈴木雅人)

サムコ科学技術振興財団の研究助成金贈呈式で、世界最強の永久磁石とされるネオジム磁石の開発者で京都市西京区のベンチャー企業NDFEB社長の佐川眞人氏(80)が記念講演を振り返り、当時は